本学関係者による展覧会情報

■ 江村耕市／メディアデザイン

『キュピキュピと石橋義正 SickeTel』
日時：～11月3日（水・祝）　会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（香川）

■ 大沼憲昭／日本画

『大沼憲昭日本画展』
日時：9月22日（水）～28日（火）　会場：京都高島屋（京都）
日時：2011年1月19日（水）～25日（火）　会場：大阪高島屋（大阪）
日時：2011年2月9日（水）～15日（火）　会場：日本橋高島屋（東京）

■ 瀧澤賢福／洋画・ミクストメディア

『茨木市展』
日時：10月1日（金）～10日（日）　会場：茨木市役所 南館（大阪）

『6人の表現』
日時：10月12日（火）～17日（日）　会場：ギャラリーあじさい（兵庫）

附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール

附属博物館

■『絵は詩のごとく、詩は絵のごとく
マリアンヌ・クルーゾの世界』
日時：10月10日（日）～11月6日（土）　10時～17時
休館日：10月17日（日）、24日（日）、31日（日）　主催：京都嵯峨芸術大学

マリアンヌ・クルーゾ（1908-2007）
フランスの女流画家。マリアンヌは生涯を通じて、言葉によって想像力を喚起された絵画作品を多く残しました。激動の時代の中で、時代の潮流に左右されず、妥協することなく、透明感溢れる作品を描き続けたマリアンヌ・クルーゾの作品（油画、版画、パステル画、挿画、立体作品）を展示します。また、現在では希少となった「ポショワール技法」を行使した、豪華な挿画本も併せてご覧ください。

■『郷土文化をつたえる～面～ 京都嵯峨芸術大学所蔵品より』
日時：11月23日（火・祝）～2011年1月22日（土）　10時～17時
休館日：日曜日、12月24日（金）～2011年1月10日（月・祝）
主催：京都嵯峨芸術大学

附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」

■『京都嵯峨芸術大学 短期大学部 専攻科 日本画展』
日時：10月26日（火）～31日（日）　10時～18時　無休
主催：京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科日本画研究室

■『嵯峨地域小学校・中学校・高校・大学連携交流展覧会』
日時：11月24日（水）～27日（土）　10時～17時　※最終日は16時まで　無休
主催：京都嵯峨芸術大学北波研究室

■『第8回　SAGA ART JAM展』
日時：11月29日（月）～12月5日（日）　10時～17時　※最終日は16時まで　無休
主催：SAGA ART JAM

■『大学院修了作品展』
日時：2011年1月8日（土）～14日（金）　10時～18時　※最終日は16時まで　無休
主催：京都嵯峨芸術大学大学院

■『めくるめくるファンタジー　絵本とその原画展』
日時：2011年1月16日（日）～23日（日）　10時～18時　※最終日は17時まで　無休
主催：京都嵯峨芸術大学文化事業課
※展覧会スケジュールは都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

連続公開講座「京の美意識」スケジュール

四季をおりなす美しい景観に恵まれ、都として約1200年にわたる歴史の時を刻んできた京都の独特の知恵や美意識について、毎回、各分野の第一線で活躍されておられる講師をお招きして、ご講演いただいています（参加無料）。また、ご希望の方には過去の講演録を販売しています（一冊千円）。

■ 第56回10月16日（土）「京都風呂敷七変化」
掛札英敬＜(有)京都掛札＞
■ 第57回11月6日（土）「京の出版事情 観光ガイド今昔」
堤勇二＜京都学園大学非常勤講師＞
■ 第58回12月11日（土）「鵜飼－鳥、人、川のつながりから－」
江崎洋子＜鵜匠・本学卒業生＞
■ 第59回2011年2月19日（土）「螺鈿（らでん）の魅力について」
野村守＜嵯峨螺鈿 野村＞

※いずれの回も14:20～有響館G401教室にて。
お申込み・お問合せは文化事業部まで。TEL.075-864-7898

出版情報／メディアでの紹介

■ 藤川桂介客員教授が執筆した
書籍が刊行

書籍名：『幻視行 月の都、京都』
著　者：藤川桂介
出版社：淡交社
定　価：1680円（税込）
発行日：2010年9月24日
ISBN：978-4-473-03670-4

■ 大森正夫教授がディレクターを務めた芸術文化の祭典
『神戸ビエンナーレ2009』のドキュメント本が刊行

書籍名：『港で出合う芸術祭 神戸ビエンナーレ2009』
著　者：大森正夫＋神戸ビエンナーレ組織委員会事務局
出版社：美術出版社
定　価：1800円（税込）
発行日：2010年8月20日
ISBN：978-4-568-50422-4

■ 大森正夫教授の研究活動がテレビ番組で紹介（予定）

10月9日(土)、午後8時～8時44分放送予定のNHK 総合テレビ『ワンダー×ワンダー』「銀閣　将軍が夢見た月の館」にて、大森正夫教授の研究活動がクローズアップされます。

番組名：『ワンダー×ワンダー』　放送局：NHK 総合テレビ
放送日：10月9日(土)　午後8時～8時44分（予定）
※再放送は翌週火曜日（翌週月曜日深夜）の午前1時5分～1時49分。
変更になる場合もあります。

京都嵯峨野文化サロン 第9回企画

旧嵯峨御所大覚寺門跡で平家の若者たちの
想いを辿ってみませんか。

テーマ：『平家物語』－乱世を生きる公達（きんだち）の哀しみ－
日　時：2010年10月2日（土）17時10分～　場所：旧嵯峨御所 大覚寺門跡
講　演：「公達の最期－その諸相と虚実」元木泰雄（京都大学大学院教授）
公　演：『清経』（作曲：野田燎、京都初演）　野田燎（サクソフォーン）、田中鶴旺（薩摩琵琶）、宮崎青畝（尺八）
参加費：A席4,000円、B席3,000円　※本学学生、卒業生は無料です。
※お申込みは、文化事業部Tel.075-864-7898まで。

「編集後記」

広報誌34号が完成しました。今回の特集では前号での対談の後半部分を紹介しています。本稿作成時は学内が耐震補強工事の真っ只中。猛暑の中、200名を超える工事スタッフが手際よく計画的に進めてくれていますが、クレーンやショベルカーが入り、壁を取り払ったり床をはがしたり、鉄骨を組み込んだり塗装し直したりと予想以上に大掛かりな工事です。後期の授業からは学内スペースがほぼ一新されるはず。改修リニューアル後の姿が楽しみですね。（広報室）

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS
学校法人 大覚寺学園
京都嵯峨芸術大学
大学院・芸術学部・短期大学部

京都嵯峨芸術大学広報　第34号　2010年9月15日発行　編集：京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
発行：学校法人 大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859　FAX.075-881-7133　info@kyoto-saga.ac.jp　www.kyoto-saga.ac.jp

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS SEPTEMBER. 2010

京都嵯峨芸術大学 広報

CONTRIBUTION　特別対談企画「学園創立40周年記念事業」本格始動！（後半）
インタビュアー：松本泰章 教授　対談出席者：三好郁朗 学長、箱崎睦昌 副学長、増田洋 教授、北村正己 教授
NEWS　大学報告：教育後援会報告／2010年度 オープンキャンパス報告／入試相談会 進路・就職支援サポートについて／小学生夏休み講座報告／
ジョー・プライス客員教授 大森正夫教授 特別公開講座「日本の光と文化」開催レポート／外尾悦郎客員教授 特別講演「ガウディと未来」開催レポート
告知：「平成22年度 嵐芸祭」開催直前告知　学園創立40周年記念事業報告：耐震補強・環境整備工事 途中経過報告
TOPICS　教員・在学生の活躍：日本観光研究学会賞 受賞／「柚子ぽうる」発売開始／海外短期留学報告
地域連携：右京区役所 嵯峨御流いけばな展示／平成22年度 いとへん展 開催レポート／2010愛宕古道街道灯し レポート　附属機関：博物館・ギャラリー企画報告
卒業生の活躍：酒木 光輪さん　大学行事予定：Sep.2010 — Feb.2011
INFORMATION　本学関係者による展覧会情報　附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール
京都嵯峨野文化サロン第9回企画　出版情報／メディアでの紹介　編集後記

34

特別対談企画「学園創立40周年記念事業」本格始動！（後半）

本学では2011年の学園創立40周年に向けた記念事業及び記念イベントの取り組みと、学部・学科再編における教育改編が本格的に始動しています。今回は、記念事業等に関わる教員の方々にお話をうかがった前号（33号）の特別対談企画の後半部分をご紹介します。

インタビュアー：松本泰章 教授
対談出席者：三好郁朗 学長、箱崎睦昌 副学長、増田洋 教授、北村正己 教授

※本対談は2010年5月に実施されたものです。

●松本広報室長

（…前号より）　では、ここからは特に項目を設けませんので、ざっくばらんに本学の将来像を語っていただきたいと思います。さて、先ほど増田先生からもお話がありましたように、本学キャンパスの工事は、ともすれば9月末に完成しているだろうというイメージを持ってしまいがちですが、実際に全ての工事が完成するのは、緑化計画等の環境整備を含めて2011年3月頃になる予定です。キャンパスの外観というのはイメージとして一番目に飛び込んで来るものですから、おそらく外部の方にとっても、本学が工事を終えた後どういう姿になるか、というところが重要になってくるのではないでしょうか。地域にひらかれた大学といいますか、例えば災害が起きた際には本学キャンパスが緊急の避難所になる、というような周辺地域の方々からみた本学の意味合いも含めて、緑化計画あたりから補足説明をしていただきたいと思います。

●増田先生

当初は屋上の緑化計画だとか、もっと大きな計画がありました。しかし、本学の立地条件として南の方向に開けていますので、やはりそこに緑があふれて学園生活に潤いがあるような雰囲気をつくり出すのが良いのではないかということになり、現在のキャンパス整備計画に落ち着きました。それと、昨今すべての大学、すべての教育機関で緑化やエコといった環境への配慮ということが必ず問われますので、本学もそういう環境への配慮を心がけている、また色々な視点の環境への配慮がある、ということの契機にしたいと思っています。

増田 洋
（芸術学部教授／40周年記念事業室長）

●松本広報室長

そうですね。学生や教員だけでなく近隣の人たちも本学の緑に癒され、大学があることによって周辺環境が豊かになってゆくことが大切で、もっといえば本学が「ここにあって良かった」といってもらえる学校になるべきだと思います。そういう意味では大きな一歩ではないかなと思います。あと、玄関ホールが整備され、ミニギャラリーがつくられるということですけれども。

●増田先生

今回、エントランスと門扉が大きく変わります。大学に来られた方に一番イメージが変わったなと思われるのが、たぶんエントランス部分だろうと思います。新しいエントランスは吹き抜けになっており、入って左側にはミニギャラリーが設置され、2階部分は学生ホールがあり、開放感のある空間が創出されることでしょう。また校舎周りは磁器タイルが敷き詰められバリアフリー化が行われます。このような環境整備が本学の新しいイメージを印象付けるのではないかと思っています。

●松本広報室長

松本 泰章
（メディアデザイン学科教授／広報室長）

今までの整備工事にくらべると、トータルな意向を持って進められることがよく分かりますね。新しい建物を建てるような派手さはありませんけれども、南面の広さを活かし玄関から中庭に通じるラインを想定して設計するなど、来た人の印象に残るキャンパスになるのではないでしょうか。特に、緑の帯が増えるということは非常に有り難いことです。

●箱崎先生

それと一番イメージが変わるのが、大学外周のフェンスですね。現在のネットフェンスを変更して、生垣にベニカナメを植えていきたいと思っていますので、前面からの視覚は随分変わって見えるのではないかと思います。

●松本広報室長

桂川の方から入って緑の中を来ると、ちょうどアニメーション「となりのトトロ」に登場する森を抜けたようにうちの大学がある、という景色ですね。これは授業の外の風景かも知れませんが、学生たちが三々五々お互い、または先生たちと話している風景が増えてほしいですし、完成後のキャンパスが学生たちに愛されるよう期待しています。あと全体を通して、学長先生が考える今後の新しい嵯峨芸に期待するところはどういうところでしょうか。

●三好学長

三好 郁朗
（学長）

少子化の時代を迎え、本学に限らず大学はどこも難しい時期にさしかかっています。10年後、さらに受験生が減少することを見据えて、今、しっかりとした大学の基礎を作っておかないといけないと思います。具体的なことについては箱崎先生や北村先生をはじめ先生方にお任せしてきましたけれど、今回、四年制の芸術学部に総合的なデザイン学科ができ、二年制の短期大学部のカリキュラムもしっかり変わるということで、本学にとって芸術学部と短期大学部のふたつの特徴ある組織ができあがると期待しています。そして少子化の時代を逆のメリットにして、一人ひとりの学生を大切にし、しっかり個人指導していきたいと思っています。そして私の残る仕事は財政的にしっかりとした基盤づくりをすることでして、寄付金の問題とか、母体である大覚寺との関係とか、自治体との関係とか、そういうことをしっかりと考えて、この学園創立40周年記念を実のあるものにしていきたいと思います。また今回の改築でも、周辺地域の方々からいろいろなご意見を受けながら進めなければならないと思います。ですから、構成員の皆様にはぜひ機会あるごとに、外部との接触を図りながら本学の意図するところを説明してもらえたらと思います。

●北村先生

本学では、「生涯学習講座」という60講座ほどの社会人向けの教室を作っていますよね。これも社会の人たちにサポートされてこそ成立する教室ですが、ありがたいことに年々参加人数が増加しているんですね。これを次の段階でどのように充実していけばいいかというのは、期待しなければならないところだなと思いますね。

北村 正己
（短期大学部教授／短期大学部長）

●三好学長

本学の文化事業部が主に担当していますが、各分野の講師の方を招き、京都独特の知恵や美意識についてご講演いただいている連続公開講座「京の美意識」なんかでも、この間は入りきれないほどの人が来られていました。これにとどまることなく、やはり大学の本来の教育に関しても周りからご理解いただけるような活動をぜひやりたいですね。

●箱崎先生

何年前からか大学で学内展を開催するようになりましたね。これの意義をもう一度問い直してみようという新しい動きが、現在学内で検討されています。まだ具体的な形にはなっていませんが、実現すれば年に1回の大きなイベントとして、大学のその年の成果を皆さんに見ていただくよい機会になろうかと思います。はっきり申しまして現在の状況では、この嵐山、嵯峨野の地域で学内展が開催されているということは、たぶんこのエリアの方々はそんなに認識されていないのではないかと思います。地域貢献の1つのかたちとして、本学の研究、実績も含めて見ていただくイベントにしたいと思いますので、今後地域の皆さんと一緒にいいかたちがつくれるようにプランを固めていきたいと思います。

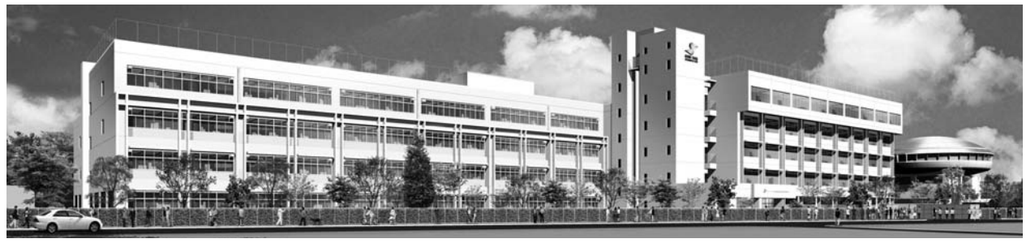
箱崎 睦昌
（副学長、造形学科教授／芸術学部長）

●三好学長

他大学では、例えば琵琶湖のそばにある大学が琵琶湖の研究をやり、学生諸君がそれに加わることで間接的に地域に貢献していくという事例もあります。本学は美術系の大学ですから、ものをつくる、ものを展示する、表現するということを通じて地域をもっと活性化するような力になれたら一番いいですね。

●松本広報室長

ありがとうございます。10年後そしてその先を見据えたうえで、今その基礎を作るんだということですね。実際10年というのはそれほど長くないので、それを私たちが再認識しないといけないということを改めて思いました。今回の建物の耐震補強工事や緑化整備、総合的なデザイン学科の誕生、さまざまなカリキュラムのリニューアルといったもの全てを、これからの基礎体力として考え、教職員である私たち同士が共有しなければならないと強く思いました。
先生方、今回の対談にご協力いただきどうもありがとうございました。


※耐震補強・環境整備工事後の大学外観イメージ図

NEWS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

大学報告

教育後援会報告

平成22年度総会が7月4日(日)に本部キャンパスAVホールにて開催されました。21年度事業報告・決算と22年度事業計画・予算が承認され、藤原啓治新会長(前副会長)をはじめ新役員が選出されました。引き続き、坂田岳彦学生部長から学生の進路支援について報告が行われ、閉会後、学科分野別に担当教員との懇談会、希望者には成績関係や学生生活、進路関係についての個別相談が実施されました。

午後からの大覚寺見学会には、約70名の保護者の方々にご参加いただき、大覚寺の名宝見学や、境内散策などをご堪能いただきました。

尚、今回の総会において5年間会長職を務められた高家昌昭氏が退任されましたが、引き続き教育後援会顧問に就任され、ご尽力いただきます。(総務課)

2010年度 オープンキャンパス報告

2010年度は、初めての入試イベントとして、高校生に実際に大学で行っている授業を見学していただく、オープンクラス(授業公開)を5月5日(水・祝)に実施しました。ゴールデンウイーク最終日にも係わらず、多数の高校生が熱心に授業を見学、本学の教員や学生にも良い刺激となったようです。続いて6月20日(日)にオープンキャンパスを、そして本部キャンパスが耐震工事実施のため、例年実施している夏のオープンキャンパスの代替イベントとして、8月1日(日)に有響館で入試相談会を実施しました。この3つのイベントの総来場者数は693名となりました。なお、10月10日(日)には、今年度最後のオープンキャンパスを実施します。リニューアルした大学の姿をアピールしていきたいと考えています。入試課)

入試相談会 進路・就職支援サポートについて

8月1日(日)、有響館にて開催した入試相談会では、高校生や父母の方々を対象に、本学の「キャリア支援」について説明いたしました。昨今の厳しい就職環境の中、本学の学生が取り組んでいる就職活動について、入学後のオリエンテーションから大学、短期大学別の進路ガイダンスに始まり、キャリアプランニング授業、自己分析、進路登録、インターンシップ、業界研究・学内会社説明会、ビジネスマナー講座、その他、各種の就活支援講座など、本学の進路サポートの状況を報告しました。また、進路支援相談コーナーを設け、進路状況や企業の募集状況等、就職・進学についての相談に応対いたしました。

夏期休暇中、学内では、「PC入門講座」を始め「ACE・イラストレーター講座」、「MOS・ワード講座」と「エクセル講座」、「Webクリエイター講座」などを開催し、学外では、協力企業各社様のご協力により「インターンシップ」実習生を受け入れていただいています。(キャリア支援課)

小学生夏休み講座報告

今年で8年目となる夏休み恒例企画「小学生夏休み講座」を8月3日(火)～5日(木)の3日間開催しました。1～3年生「水族館を作ろう」(北村正己教授担当)、4～6年生「伝承おもちゃを作る(張り子)」(仲政明准教授担当)と学年グループ毎にテーマを設定して制作し、最終日に保護者も参加して全学年合同の合評・鑑賞会を行いました。近隣を中心に102名の小学生が参加し、この夏に本学で立体工作の面白さをじっくり体験することができたのではと思います。今後も本学の特色を生かし地域に開かれた大学として皆さまのニーズにお応えできる生涯学習をめざしていきます。(文化事業課)

ジョー・プライス客員教授 大森正夫教授
特別公開講座「日本の光と文化」開催レポート

5月5日(水・祝)有響館G401教室にて、ジョー・プライス客員教授と大森正夫教授による特別公開講座が開催されました。伊藤若冲作品のコレクターとして世界的に知られているプライス客員教授は、「日本の光と文化」と題された今回の講座のなかで、真に日本の伝統的絵画を理解するために必要な鑑賞方法などについてお話されました。また、大森教授は庭園と建築との係わり方の問題など、バーチャル・リアリティの映像を使って解説され、本学生をはじめ一般の方も含めた受講者の方々は皆熱心に聴き入っていました。それぞれ光に関連したテーマで解説された本講座では、自然と密接に関わりながら発達してきた日本の伝統的文化芸術が持つ深い意味合いを感じ、また考えていただけたのではないでしょうか。(広報室)

外尾悦郎客員教授
特別講演「ガウディと未来」開催レポート

7月13日(火)有響館にて、スペインのバルセロナに位置するサグラダ・ファミリア聖堂の主任彫刻家を務めるなど、世界的な彫刻家として活躍されている外尾悦郎客員教授による特別講演が開催されました。2010年4月に本学の客員教授に就任されて以来はじめてとなる今回の特別講演では、世界の建築家や芸術家に大きな影響を与えたサグラダ・ファミリア聖堂の建築を通して、外尾客員教授がこれまでに手がけられてきた活動をはじめ、ものづくりの奥深さなどについて深く言及され、貴重なエピソードも交えて語られました。講演後半には質疑応答も行われ、活発な意見交換が繰り広げられた会場は大いに盛り上がりをみせ受講者の方々にとって大変実りある時間となりました。今後も年間2回の実施を予定している外尾客員教授の講演にぜひご期待ください。(広報室)

学園創立40周年記念事業報告

耐震補強・環境整備工事 途中経過報告

今年度は耐震補強・環境整備工事を行うためゴールデンウイークに授業を行い、例年より約1週間早く前期の授業を7月12日(月)に終了しました。7月の第2週よりA、B棟の現地調査、C、E棟の外壁調査・クラック補修・シール打ち替え・洗浄・塗装・タイル浮き注入工事等、さらに各棟の大学資材の移動・片付けを行いました。現在、7月の第3週ですが工事も本格化しています。A、B棟内部では、天井ボード・既存間仕切り解体作業、A、B棟外部は足場組み立て・北面倉庫解体・基礎掘削・外壁壁リブ解体、C、E棟では第2週より実施している作業を継続しています。またA～C棟トイレの衛生器具ほか電気設備器具・ブース解体・天井器具の撤去も行っています。外溝作業は始まったばかりですが、中庭の環境整備工事では中庭土出し・飛び石等撤去・搬出・防水層確認が行われ、完成されればウッドデッキのオープンスペースとなり、学生の作品発表や課外活動の場として有効利用されることでしょう。耐震補強・環境整備工事に従事する人は1日に約250人にのぼり、開学以来の大事業となっています。タイトルなスケジュールですが、9月末には耐震補強工事は完了し、後期の授業はリニューアルした学び舎で行える予定です。(40周年記念事業室)

告知

「平成22年度 嵐芸祭」開催直前告知 (11月3日、4日開催)

今年度の嵐芸祭テーマは『おとぎ』。装飾は『不思議の国のアリス』や『ブレーメンの音楽隊』などのおとぎ話をトリックアートや立体物を用いて表現し、企画は学生達の参加型イベントを中心に、創造する楽しさを感じてもらえると考えています。今年は一回生、二回生を中心としたメンバーで計画されるため、例年とは一味違う“わくわく”を感じられると思います。皆さん是非、ご来場ください！(嵐芸祭実行委員会 実行委員長 仲田浩平)

TOPICS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

教員・在学生の活躍

日本観光研究学会賞 受賞

9年におよぶ一大プロジェクト 通称“草魚バスターズ”の活動が実を結ぶ

本学芸術学部、観光デザイン学科の真板昭夫教授が共同で著作した書籍『大覚寺大沢池 景観修復プロジェクト～古代と現代をむすぶ文化遺産～』が、第3回日本観光研究学会の「観光研究学会 学会賞 観光著作賞」を受賞しました。

この書籍は2009年12月に世界思想社より出版され、真板教授がこれまで取り組んでこられた大覚寺大沢池の景観修復プロジェクト、通称“草魚バスターズ”の9年間の活動を記録するとともに、なぜ大沢池が1200年ものあいだ京都唯一の生きた自然系文化遺産として残り続けることができたのかを解明し、その歴史的・文化的価値を分析しています。

今回受賞した「観光研究学会 学会賞 観光著作賞」とは、観光分野の優れた著作に対して与えられる賞で、真板教授は5月29日(土)に立教大学にて行われた同学会総会での授賞式にも参加されました。(広報室)

「柚子ぼうる」発売開始

本学卒業生と京絵巻総本舗とのコラボレーションお菓子が誕生！

本学の短期大学部美術学科デザイン分野、暮らしのグッズ・プロダクトデザインの卒業生である藤井詩織さん(2010年3月卒)と京絵巻総本舗(京都菓子工業株式会社)がコラボレーションして誕生したお菓子「柚子ぼうる」が、嵯峨野観光鉄道トロッコ嵯峨駅で7月12日(月)より発売されました。これは昨年、京絵巻総本舗が地産地消の考えに基づいて水尾の柚子を素材としたお菓子を提案され、嵯峨野観光鉄道のトロッコ列車が水尾を通ることもあり、両社が提携して何かできないかというお話から誕生したものです。その後、両社が話し合った結果、京絵巻総本舗が柚子を使用したお菓子を製造、地元の本学生藤井さんがパッケージデザインをし、嵯峨野観光鉄道トロッコ嵯峨駅で販売してもらえることになりました。

この「柚子ぼうる」は、京都のお菓子「そばぼうろ」の新バージョンとして柚子の風味を新たに加えた京都らしいひと品で、1袋360円(税込)で発売されています。(広報室)

海外現地研修報告

前期の約三ヵ月、京都嵯峨芸術大学から初めての学生として、提携校のあるスペイン・ガリシア州のオウレンセへ単独で短期留学、バルセロナで研修をしました。スペインでは英語が殆ど通じず、しかも自分はスペイン語を知らない中、日本にいて感じられない感動、あまり見られない義理と友情愛などを目の当たりにして多くを学びました。

オウレンセでは自前の個性が今までの日本人留学生と異なることから、すぐに学生、教員、他の留学生、そして町の人と仲良くなり、非常に快適でした。とても早いペースで知り合いを作り、毎日の授業が楽しかったのがすごく印象的です。バルセロナでは新たな友人が大勢でき、また現場では授業よりもっと深く、批評より批評らしい物事に直面し、芸術性をより深められました。(観光デザイン学科4回生 黒田頌)

地域連携

右京区役所 嵯峨御流いけばな展示

右京区役所に癒しの空間が誕生！？ 本学生のいけばな作品を展示

2010年5月より、右京区役所のある複合施設「サンサ右京(京都市右京区太秦下刑部町)」の総合案内所(コンシェルジュカウンター)に、本学生による生け花作品が飾られています。本学では、設置母体である旧嵯峨御所 大覚寺門跡の伝統ある華道嵯峨御流の授業を受けることができ、学習成果の発表の場として、また、周辺地域の方々へ生け花に対する理解を深めてもらおうと企画・実現に至りました。毎週月曜日には新しい作品を披露しており、訪れる方々の憩いの空間となることを目指しています。(広報室)

平成22年度 いとへん展 開催レポート

芸術系6大学が垣根を越えて結ぶ みんなの「縁」と「絆」

昨年に引き続き、「いとへん産業」のまち・室町にある「きらっ都プラザ(京都産業会館)」を会場に、8月7日(土)～9日(月)にかけて「平成22年度 いとへん展 －芸術系6大学・学生デザイン作品展－」が開催されました。本展では本学のほか、公益財団法人大学コンソーシアム京都に参画する芸術系6大学の京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、大阪成蹊大学、成安造形大学の学生によるデザイン作品がずらりと勢揃い。開催初日には門川京都市長出席のもとオープニングセレモニーが行われ、6大学の代表者を中心としたパネルディスカッションや各大学によるワークショップ、さらにはクラシック演奏会も行われるなど、開催期間は3日間と短いながらも多彩なイベントが目白押しで、来場者の方々も興味深く本展を楽しんでいました。来年も継続予定の本展、さらなる発展を遂げる「いとへん展」に要注目です。(広報室)

2010愛宕古道街道灯し レポート

今年も学生サークル“竹造－TAKEZO－”が魅惑と幻想の灯りをともします

8月23日(月)から25日(水)にかけて「愛宕古道街道灯し」が開催され、学生サークル“竹造－TAKEZO－”が制作した巨大行灯を含む約800基が清涼寺(嵯峨釈迦堂)から愛宕神社(一の鳥居)までの街道沿いに並びました。このお祭りは、化野念仏寺での千灯供養、また地蔵盆にあたる日の夕べにあわせ、瀬戸内寂聴氏と嵯峨野保勝会、本学が共につくりあげてきたものです。今年は地元の方々や小中高校生と共に作る行灯以外に、はじめて本学生涯学習講座の一環として大学が積極的に取り組み、受講生が制作した行灯も並び、より地元地域と大学の連携が強くなり、祭り全体が活気づきました。(文化事業部)

附属機関

博物館・ギャラリー企画報告

【附属博物館】

「重要無形民俗文化財　嵯峨大念仏狂言展　－装束と道具を中心に－」(6/1～6/20)を開催しました。昨年度に引き続き嵯峨大念仏狂言保存会の協力のもと、装束と小道具を展示しました。中でも昨年以来の調査で判明した、和宮降嫁の際、縁組御用掛を務めた女官高野房子に関係した装束を今回初出展し、多くの方々にご覧いただきました。また初日には、嵯峨大念仏狂言保存会の方々によるワークショップを開催しました。本学学生や一般の方など約15名が参加され、身近で「土蜘蛛」の一場面を観賞したり、実際に使用されている面を着けたりと、日頃は出来ない貴重な体験をしていただきました。

「CIRCULATION2」(6/23～6/27)は、芸術学部メディアデザイン学科3回生メディアアート領域学生と、短大美術学科2回生ミクストメディア領域学生による共通の課題作品を、附属博物館とギャラリーの2会場を使用し展示しました。

【附属ギャラリー】

「ANIMATION OB/OG FRONT」(5/25～6/13)、「CIRCULATION2」(6/22～6/27)、「フィンランドが誇るグラフィックデザイナー　タパニ・アールトマーのポスター展」(6/29～7/4)、「油画3、4回生作品展」(7/7～7/12)を開催しました。学生の課題制作発表展に加え、アニメーションの世界で活躍する先輩の作品、フィンランドのグラフィックデザインの第一人者、故タパニ・アールトマー氏のポスター作品を身近にみることが出来たのは、学生にとっても大きな刺激になったのではないでしょうか。(博物館・ギャラリー課)

卒業生の活躍

酒木 光輪　さかき こうりん

大阪府　城星学園高等学校　出身
2009年　京都嵯峨芸術大学　短期大学部　専攻科　美術専攻　日本画コース　卒業

現在、月刊誌の表紙画を担当している酒木さん
制作に打ち込むことの大切さについてお話をうかがいました

――現在のお仕事を教えてください。

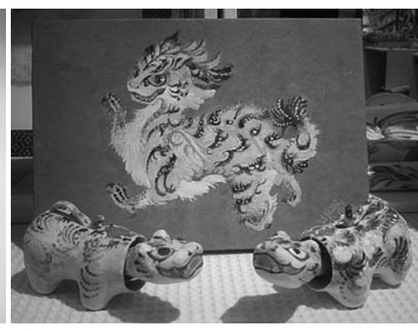
『川柳マガジン』という月刊誌の表紙のお仕事をさせていただいています。また、フィギュアの彩色設計などもします。そして、自分自身の制作もしています。

――現在のお仕事の苦労話や喜びなどを教えてください。

月刊誌『川柳マガジン』は、初めての表紙のお仕事なので、毎号発見の連続です。年配の方の雑誌なので、毎号の違いが出て、なおかつ見つけやすくなる様に心がけています。編集部の方から直接感想が頂けることが新鮮で、「良かったよ」と言って頂けた時はとても嬉しいですね。

――学生時代のお話や後輩へのメッセージなどを教えてください。

実は、入学当初の私は心身共に不安定な学生で、教授方や学生課の方々にご心配をおかけしました。しかし、様々な方に支えられて過ごしているうちに、忘れていた「大好きだったモノ」を思い出し、それがもう一度「大好きなモノ」に戻り、結果的に復活するきっかけになり現在に続いています。それからは、むしろ「家は寝るために帰っているだけ」状態になりましたね。とにかく制作に没頭していて、ずっと『表現したい技法、画材』と『表現したいモノや世界』をどうやったらつなげる事が出来るのかを考えていました。休日も作品を持って帰っていた程、制作が大好きだったんです。表現したいモノがあったり、見つかったりしたら、自分の専攻するジャンルじゃなくても怖がらずに一度「こっそり」やってみると良いかも知れません。私も在学中は日本画を制作しながら、スケッチブックに怪獣や特撮っぽい絵を描いていましたから。これから入学する方や在学生の皆さんには、それぞれ大好きなモノや場所を見つけて、それを忘れないで、楽しんでたくさん制作してほしいですね。「そんなもの自分には無いよ」と思っていても、嵯峨芸は不思議な空間です。一生懸命制作していたら知らないうちにひょっこり思い出しますから、心配いらないと思います。



酒木さんが表紙を担当している月刊誌『川柳マガジン』(左) と作品 (右)

大学行事予定 Sep.2010 – Feb.2011

■9月29日(水)	9月卒業式
■10月2日(土)	京都嵯峨野文化サロン (大覚寺)
■10月4日(月)	後期授業開始
■10月10日(日)	オープンキャンパス
■10月15日(金)	月例法要
■10月16日(土)	京の美意識「京都風呂敷七変化」
■10月17日(日)	3年次編入学入試 (前期)
■10月24日(日)	専攻科入試 (前期)
■11月3日(水・祝)・4日(木)	嵐芸祭
■11月6日(土)	京の美意識「京の出版事情　観光ガイド今昔」
■11月14日(日)	推薦入試 (短期大学部)
■11月15日(月)・16日(火)	推薦入試 (芸術学部)
■11月28日(日)	大学院入試 (前期)
■12月11日(土)	京の美意識「鵜飼－鳥、人、川のつながりから－」
■12月12日(日)	特別入試 (前期)　※海外帰国生・社会人 (芸術学部・短期大学部) 自己推薦入試 (前期)
■12月15日(水)	月例法要
■12月26日(日)～1月6日(木)	冬季休業
■1月7日(金)	授業再開
■1月21日(金)	月例法要
■1月27日(木)	後期授業終了、学園創立記念日
■1月28日(金)	一般入試 (前期・短期大学部) 外国人留学生特別入試 (短期大学部)
■1月29日(土)	外国人留学生特別入試 (芸術学部)
■1月29日(土)・30日(日)	一般入試 (前期・芸術学部)
■1月31日(月)・2月1日(火)	第39回制作展 作品搬入 (京都市美術館)
■2月2日(水)～6日(日)	第39回制作展
■2月8日(火)～18日(金)	後期集中授業
■2月23日(水)	一般入試 (後期・短期大学部) 専攻科入試 (後期)
■2月24日(木)	一般入試 (後期・芸術学部) 3年次編入学入試 (後期) 大学院入試 (後期)